

令和7年度「防災スペシャリスト養成」有明の丘研修(第3期)募集要項

1. 研修概要

■ 研修内容

- ・ 本研修では、防災スペシャリストに必要とされる知識・技能・態度について、座学や演習を通じて体系的に習得できる 10 コースが用意されています。

① 防災基礎 風水害 / 脆弱性と被害の実態 / 災害法体系・防災計画 等	⑥ 【災害対策】復旧・復興 仮設住宅 / コミュニティ・まちづくり / 産業復興と雇用 等
② 【災害対策】災害への備え 防災教育・教訓伝承 / 企業防災 / BCP・BCM 等	⑦ 【組織運営】指揮統制 指揮統制の現状 / リーダーシップ / 災害対策本部運営 等
③ 【災害対策】警報避難 警報等の種類・内容 / 発令判断 / 決心ポイント 等	⑧ 【組織運営】対策立案 対策立案プロセス / 地図による状況認識 / 政府支援 等
④ 【災害対策】応急活動・資源管理 相互応援・支援体制 / 廃棄物処理 / 物資調達・輸配送 等	⑨ 【組織運営】人材育成 状況付与型図上演習 / 地域防災リーダーの育成 等
⑤ 【災害対策】被災者支援 救助法・支援法 / 避難所運営 / 個別避難計画 等	⑩ 【組織運営】総合監理 総合防災政策 / 災害対策本部体制 等

👉 各コースの詳細は p.6からのコース紹介をご覧ください。

■ 研修方法

- ・ 各コースでは、それぞれオンデマンドによる講義動画を視聴していただき、その後に、対面で演習を行います(コース①はオンデマンドによる講義動画の視聴のみ)。

👉 講義動画は1コースあたり8時間程度となっていますが、研修開始から演習までの約3週間で視聴すればよく、また、PCだけではなくスマホやタブレットでも視聴が可能なので、計画的・効率的に進めることができます。

👉 演習は1日間で、東京都江東区にある「有明の丘」※において行います。

※ 東京都江東区有明3丁目8-35 東京湾臨海部基幹的広域防災拠点

👉 令和7年度からは、受講枠の拡大に伴い①コースを除く9コースで、演習を同一内容で2回別日に実施します。いずれかご都合の良い回を選択してください。

※ 応募人数が少ない場合は1回開催となる場合があります。

👉 対面での演習により、講義動画で得た知識が行動に結びつき、個々の知識を関連付けてまとめ、適切な行動をとるために必要な知識の体系化が図られます。また、他の受講者と顔の見える関係となり、お互いに知らないことを教えあう、平時にも、いざというときにも相談できる仲間を得ることができます。

■ 研修期間：令和7年12月15日(月)～令和8年3月15日(日)

👉 全体の期間は上記のとおりですが、各コースによって、講義動画の視聴開始日や演習日等が異なります。詳細は p.6からのコース紹介をご覧ください。

■ 講義動画の視聴方法

- ・ 講義動画の視聴には、Platonというオンライン学習管理システムを使いますが、通常のWebサイトにアクセスできるPC、スマホ、タブレットがあれば、新たにアプリをダウンロードする必要はありません。

👉 PC等のOS・ブラウザは最新バージョンを推奨します。また、動画視聴には大容量のデータ通信が生じるため、接続環境は固定回線をお勧めします。

👉 以下のサイト・QRコードが動画視聴も確認できるデモ画面となっています。

<https://marketing.platon.jpn.com/>

お使いの端末でアクセスできるか、応募前にご確認ください。

IDとパスワードを求められた場合、以下をお使いください。

ID: demo1 パスワード: demo1pass



👉 講義動画を視聴可能な端末が用意できない方には、事前申込みにより、ノートPCを無償で貸与しています(ただし、送料として3,000円を受講者にご負担いただきます)。詳細については、事務局までお問合せください。

- ・ 受講の決定通知をお送りした後、受講開始の1週間前までに講義動画を視聴するためのサイトへのアクセス方法、IDとパスワードをお送りします。

■ 修了認定

- ・ コース毎に最後に確認テストとアンケートを実施しますので、それらをご提出いただくことで、修了認定となります。

- ・ 修了認定については、メールでご連絡します。また、修了証については、オンライン学習システム、または、メールにより、PDFファイルで発行します。

- ・ なお、内閣府では、コース②～⑩のすべてを修了し、かつ、防災行政に係る一定の実務経験等を有する方などを「地域防災マネージャー」として証明しています。

👉 地方自治体が、「地域防災マネージャー」の証明を受けた外部人材の方を防災監や危機管理監等として採用・配置する場合、そのために必要となる経費(人件費)については、特別交付税措置の対象となります。詳細については、内閣府までお問い合わせください。

■ 必要経費等

- ・ 受講料は無料です。また、演習参加にかかる交通費は受講者にご負担いただきます。当日の昼食などもそれぞれでご準備ください(食事会場は別途ご案内します)。

- ・ 演習会場の有明の丘に宿泊施設はないので、必要な方は各自手配をお願いします。

■ オープニング交流会

- ・ 本研修においては、講義動画の視聴を受講者の皆様それぞれが計画的・効率的に進めていただく必要があります。1コース合計8時間程度になるすべての動画をご覧になる過程では、目標を見失い、挫けそうになることがあるかも知れません。
- ・ そこで、本研修では、受講者の皆様がお互いに励ましあって、学習のモチベーションの向上につながる仲間づくりのきっかけとして、各コースの開始前にオンラインによる交流会を実施しています。
- ・ 交流会では、受講者や講師の自己紹介、グループに分かれた意見交換などを行いますので、原則としてご参加ください。

2. 応募要領

■ 募集期間


- ・ 令和7年11月7日(金)13時00分 から 11月21日(金)17時00分まで

■ 応募条件

(1) 所属

- ・ 本研修の趣旨から受講対象者は、国、地方公共団体、指定公共機関の職員とします。
- ・ コース①については、国、地方公共団体、指定公共機関に加え、本年度から災害対策基本法の規定に基づく指定地方公共機関の職員も対象とします。
- ・ 防災・危機管理所管部署の職員に限定しません。ただし、外部委託事業者等を除きます。

(2) コース①「防災基礎」の修了

- ・ 災害対策や組織運営の前提となる制度等をコース①で学ぶため、他のコースを申込む場合は、事前にコース①を修了していることを条件とします。
 これまでにコース①を修了していなくても、コース①と他のコースを同時に申込むことは可能です。ただし、同時申込の場合は、コース①を他のコースの演習日まで修了しておく必要があります。


(3) 所属組織からの承諾

- ・ 応募にあたっては、所属している組織の管理職の方、または、それに相当する方の承諾を得ておいてください。

■ 受講希望コースの選び方

- ・ 応募にあたっては、応募条件を満たした上で、関心のあるコースを自由に選択することができます。選択するコースは、1つでも、複数でも構いません。
- ・ なお、災害への備え、警報避難、被災者支援などの災害対策を学ぶコースでは、演習等を職位別に行うことがあります。そのため、コース②～⑥を希望する場合、さらに、実務担当コースか一般管理コースかのいずれかを選んでいただきます。
- ・ また、指揮統制、対策立案、人材育成などの組織運営を学ぶコース⑦～⑩については、以下の職位のうち、上級管理の方々の受講を想定しています。

職位	災害時の役割の例
実務担当： 災害対応における各班の実務を担当する職員	災害対応組織の班員 関係部局からの支援要員 等
一般管理： 災害対応の各業務の指揮・活動調整(応援受援業務を含む)を担う班長等の職員や将来見込まれる職員	災害対応組織の班長 等
上級管理： 災害対応の意思決定や全体指揮にあたる者やそれを補佐する職員	災害対策本部副本部長 危機管理監、本部員 等

 応募にあたっては、ご自身の職位も踏まえて、受講希望コースをお選びください。

- ・ 対面演習は同一の内容を 2 回実施します。希望日への申込みが集中した場合は、所属等を踏まえ受講者を決定します。受講希望コースを選択される際に、「どちらの回でもよい」をお選びいただくと、受講できる可能性が高くなります。

■ 応募方法


- ・ 応募にあたっては、以下のサイトの応募フォームに、お名前、所属団体・部署名、職種、担当業務、職位、連絡先、受講希望コース等の必要事項をご入力・送信してください。

<https://bousai-ariake.jp/introduction/ariake/introduction form>



■ 受講者の決定

- ・ 応募者数が定員を超過した場合、所属等を踏まえ受講者を決定し、受講の可否については、募集期間終了後、すべての応募者にメールでご連絡します。

 定員については、p.6からのコース紹介をご覧ください。

- ・ 受講決定者には、受講決定通知と講義動画を視聴するためのサイトへのアクセス方法、IDとパスワードをお送りします。
- ・ 受講決定後の受講者の変更はできません。また、受講をキャンセルする方がいた場合でも、再抽選等による追加の受講決定は行いません。

3. その他

本研修には、例年、多くの方からのご応募をいただいております。抽選等によって受講者を決定しています。しかし、その中には、研修を途中で中断されてしまう方もいます。業務多忙など様々な事情があるかとは思いますが、抽選等に漏れた他の方々の研修機会が失われていることも踏まえると、それは大変残念なことです。

受講者の皆様には、ご自身のスキルアップ、さらには、災害が激甚化・頻発化する我が国の災害対応力向上のために、どうか最後まで研修を修了されることを願っています。また、そうした気概をもって、ぜひ、本研修にご応募いただきたいと存じます。

また、受講者が所属する組織の管理職の方々には、学習効果の向上やワークライフバランスの観点から、極力、受講者が勤務時間内に講義動画の視聴等ができるよう、ご配慮のほど何卒よろしくお願いいたします。

なお、本研修の詳細については、適宜、情報提供いたします。また、本研修にかかる業務は(株)サイエンスクラフトに委託しています。ご不明な点については、事務局までお問合せください。

【主 催】内閣府 担当:政策統括官(防災担当)付参事官(訓練・人材育成担当)付
洲永・原沢・黒木・平瀬 電話:03-5797-7603(直通)

【事務局】〒102-0085 東京都千代田区六番町13-7 中島ビル2階
(株)サイエンスクラフト 担当:武田・清水・坂口
電話:03-6261-5903 E-mail:kenshu@scraft.co.jp

【コース紹介】

■ 各コースの内容・主な対象者・期間・定員

コース名	内容	主な対象者	動画視聴期間	定員
① 防災基礎	風水害／地域の脆弱性と被害の実態／災害法体系・防災計画・災害への備え／災害から命を守る／被災者の応急救助／災害から暮らしを守る／災害時の応援・受援体制／災害から回復する／多様な視点からの災害対応 等	防災部門のみならず、災害対応に関わることになる職員など、災害対応の基礎を学びたい方 推奨職位:実務担当・一般管理・上級管理	R7.12.15(月) ～R8.3.15(日)	800名

災害対策				
コース名	内容	主な対象者	演習日	定員
② 災害への備え	地域防災計画・地区防災計画／防災教育・災害教訓の伝承／企業防災／行政のBCP,BCM／住民啓発／地域の自主的な防災活動／災害ボランティア	防災計画等の立案や住民啓発、防災教育、企業防災、災害ボランティアを担当する職員など、平常時の防災対策を実施するための知識や手法を学びたい方 推奨職位:実務担当・一般管理	1回目[1.28(水)] 2回目[2.19(木)]	実務担当 60名/回 一般管理 60名/回
③ 警報避難	警報等の種類と内容／避難情報の発令判断・伝達等／土砂災害・風水害における警報と避難／南海トラフ地震臨時情報／警報避難を確実にする計画／各関係機関との連絡調整	住民の避難誘導を担当する職員など、情報の収集・分析、避難情報等の発令、避難誘導対策を学びたい方 推奨職位:実務担当・一般管理	1回目[1.30(金)] 2回目[2.20(金)]	実務担当 60名/回 一般管理 60名/回
④ 応急活動・資源管理	初動対応における国との連携／地方公共団体間の相互応援と受援体制／災害廃棄物処理／救援物資の調達／救援物資の輸配送／活動拠点・環境の確保／救援物資ロジスティクス演習	応急活動や応援・受援を担当する職員など、物資・活動拠点や外部からの応援といった災害時の資源(人・物・環境)の管理と調整について学びたい方 推奨職位:実務担当・一般管理	1回目[1.29(木)] 2回目[2.24(火)]	実務担当 60名/回 一般管理 60名/回
⑤ 被災者支援	災害救助法と被災者生活再建支援法／避難所運営等避難生活支援／避難所運営の実際／要配慮者をはじめとする避難者の避難生活支援／被災者支援の個別課題／生活再建支援業務	医療・福祉・保健部門で避難所運営や被災者対応を担当する職員など、被災者支援を実施する知識や手法を学びたい方 推奨職位:実務担当・一般管理	1回目[2.2(月)] 2回目[2.25(水)]	実務担当 60名/回 一般管理 60名/回
⑥ 復旧・復興	公共基盤の復旧／仮設住宅／コミュニティ再生／市街地の復興まちづくり／住まいの再建／地域産業の復興と雇用確保	土木部門でインフラ整備を、都市計画部門で復興を、政策企画部門で生活・社会・産業など総合的な計画策定等を担当する職員等、復旧・復興政策を学びたい方 推奨職位:実務担当・一般管理	1回目[1.26(月)] 2回目[2.18(水)]	実務担当 60名/回 一般管理 60名/回

組織運営				
コース名	内容	主な対象者	動画視聴期間 〔演習日〕	定員
⑦ 指揮統制	世界標準に則した災害対策を実現するための留意点／指揮統制の世界標準／指揮統制の現状／日本社会に適した指揮統制のあり方／リーダーシップのあり方／参謀にとっての災害対策本部運営／災害広報	災害対応における組織の運営を担当する防災担当の幹部職員など、参謀としての役割を学びたい方 推奨職位: 上級管理	1回目〔2. 5(木)〕 2回目〔2. 26(木)〕	60名/回
⑧ 対策立案	指揮統制の世界標準／災害対策本部が行う対策立案プロセス／地図による状況認識の統一と ISUT の試み／応急期の政府支援／効果的な災害対応計画・マニュアルの作成方法／災害対策本部運営演習	災害対策本部で発災時に被災状況等の情報収集・分析を担当する防災担当の幹部職員など、適切な対策を迅速に立案する手法を学びたい方 推奨職位: 上級管理	1回目〔2. 6(金)〕 2回目〔2. 27(金)〕	60名/回
⑨ 人材育成	訓練・研修の実際／訓練・研修企画手法／状況付与型図上演習／地域防災リーダーの育成／討議型図上演習／人材育成に関するテーマ別情報交換会／人材育成プログラム作成演習	職員や組織の災害対応能力向上を図るための人材育成プログラムの策定を担う防災担当の幹部職員など、訓練・研修の効果的な企画・運営の知識や手法を学びたい方 推奨職位: 上級管理	1回目〔2. 3(火)〕 2回目〔3. 2(月)〕	60名/回
⑩ 総合監理	総合防災政策／総合的な被害抑止施策の実施／リスク評価に基づく災害対応の検証／応急対策の実態／大規模災害の検証と対応／災害対策本部体制	防災に関する政策立案や、平常時からの災害対応に必要な組織の構築を担う防災担当の幹部職員など、総合的な防災対策を実施するための知識や手法を学びたい方 推奨職位: 上級管理	1回目〔2. 4(水)〕 2回目〔3. 3(火)〕	60名/回

■ 研修カリキュラム【令和7年度 第3期】

- ・ 番号に「演習」とあるものが有明の丘の演習日に行う内容です。それ以外は、講義動画の視聴になります(一部、受講者個人で作業いただくものもあります)。
- ・ 各コースとも講義動画の視聴時間の合計は約8時間です。なお、カリキュラムは変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

① 防災基礎：コースコーディネーター 牛山 素行（静岡大学）		
必修		
1	概論	防災・危機管理の基本的な考え方や、我が国の自然特性、近年の災害事例について学ぶ。
2	風水害	風水害発生メカニズムと、風水害災害による被害の概要について学ぶ。
3	地域の脆弱性と被害の実態	自然災害による人的被害の実態を理解し、地域ごとの災害特性やハザードマップの読み方、風水害、地震のハード対策を学ぶ。
4	災害法体系・防災計画・災害への備え	防災活動全体の流れや災害関連法の体系、防災関連計画、政府の初動体制、防災人材育成、地区防災計画、個別避難計画等の概要を学ぶ。
5	災害から命を守る	「災害から命を守る」ための基本的な知識として、防災気象情報の概要や、避難情報の意味や内容を学ぶ。
6	被災者の応急救助	災害救助法の概要を理解し、被災者のいのちを守るために行う活動の概要や事前に備えておくべきことを学ぶ。
7	災害から暮らしを守る	避難所の開設・運営、災害廃棄物処理、被害認定調査、災害ケースマネジメント等、行政が行う手続きの基本を学ぶ。
8	災害時の応援・受援体制	災害時に行う応援・受援に係る制度、受援体制の構築および受援計画の作成、応急対策職員派遣制度等の概要について学ぶ。
9	災害から回復する	被災者生活再建支援制度、災害弔慰金・災害援護資金、激甚災害制度、大規模災害からの復旧・復興、インフラ復旧の基本を学ぶ。
10	多様な視点からの災害対応	地域の多様な主体が避難所運営に係ることの意義や、災害時における男女共同参画の必要性等について学ぶ。
選択		
11	地震・津波災害のハザード	地震・津波発生メカニズムと、その災害の被害、地震・津波の観測・予測情報、防災対策の基本を学ぶ。
12	火山災害のハザード	主な火山の噴火現象、火山噴火の観測・予測情報、火山災害の被害や対策の基本を学ぶ。
13	大規模地震対策① 首都直下地震の対策	首都直下地震を対象に、その被害想定等や、「緊急対策推進基本計画」及び「具体計画」の概要について学ぶ。
14	大規模地震対策② 南海トラフ地震の対策	南海トラフ地震を対象に、その被害想定等や、「緊急対策推進基本計画」及び「具体計画」の概要について学ぶ。
15	大規模地震対策③ 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震の対策	日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震を対象に、その被害想定等や、「防災対策推進基本計画」及び「具体計画」の概要について学ぶ。
16	大規模地震対策④ 東日本大震災の教訓	東日本大震災の復興過程で明らかとなった主たる課題や困難、そこから得られた教訓について学ぶ。

② 災害への備え : コースコーディネーター 丸谷 浩明 (東北大学)		
1	「災害への備え」総論	自助・共助・公助による災害への備えの基本的な考え方や対策を学ぶ。
2	地域防災計画・地区防災計画	地域防災計画、地区防災計画を、どのように災害の備えに向けて活用するのかを学ぶ。
3	防災教育・災害教訓の伝承	地域に根差した防災活動を進めるための防災教育および災害教訓の伝承について学ぶ。
4	企業防災	企業が災害時に果たすべき役割を認識し、企業と行政が連携した防災活動について学ぶ。
5	行政のBCP、BCM	行政におけるBCP、BCMの意味と策定のポイントについて学ぶ。
6	住民啓発	住民向けの防災の啓発の基本的な事項および具体例について学ぶ。
7	地域の自主的な防災活動	住民の自主防災組織の意義・役割と行政による推進策について学ぶ。
8	災害ボランティア	災害ボランティアの意義・役割と行政との連携について学ぶ。
9 演習	「災害への備え」ワークショップ	【実務担当】災害への備えの推進方策を災害対応組織の班員レベルで議論し、自らの組織での具体的な行動への反映を考える。
		【一般管理】災害への備えの推進方策を災害対応組織の班長などのレベルで議論し、対応組織の管理業務への反映を考える。

③ 警報避難 : コースコーディネーター 井ノ口 宗成 (立命館大学)		
1	警報避難総論	警報避難対策の基本的な考え方と事前対策を学ぶ。
2	警報等の種類と内容	警報等の種類と内容、伝達について学ぶ。
3	避難情報の発令判断・伝達等	避難情報の判断と伝達方法について学ぶ。
4	【実務担当】土砂災害における警報と避難	土砂災害における警報と避難の実務について学ぶ。
	【一般管理】警報避難における状況判断	情報活動サイクルにもとづく情報収集・集約の枠組みについて学ぶ。
5	【実務担当】風水害における警報と避難	風水害における警報と避難の実務について学ぶ。
	【一般管理】警報避難における決心	決心のための状況認識の統一や進言のあり方について学ぶ。
6	南海トラフ地震臨時情報	地震災害の警報と避難について学ぶ。
7	警報避難を確実にする計画	風水害における警報と避難の実務について学ぶ。
8	各関係機関との連絡調整	警報避難において連絡・調整すべき他機関と、各機関の取組について学ぶ。
9 演習	【実務担当】警報避難における情報処理	警報避難において意思決定に必要な情報の収集・集約を演習形式で学ぶ。
	【一般管理】警報避難における意思決定	警報避難における的確な意思決定を実施し、上長に進言する内容を精査する方法を演習形式で学ぶ。

④ 応急活動・資源管理：コースコーディネーター 宇田川 真之（防災科学技術研究所）		
1	応急活動・資源管理総論	応急活動の流れと資源管理に関する基本的な考え方について学ぶ。
2	初動対応における国との連携	国における初動対応の内容とその連携のあり方について学ぶ。
3	地方公共団体間の相互応援と受援体制	災害時の行政機関の間で行われる応援受援の仕組みと受援体制について学ぶ。
4	災害廃棄物処理	被災地における資源確保の例として、災害廃棄物の撤去・処理の進め方と留意点を事例に基づき学ぶ。
5	救援物資の調達／救援物資の輸配送	救援物資の調達に関する実務と課題、また、救援物資の輸配送に関する実務と課題を学ぶ。
6	活動拠点・環境の確保	応急活動を行うために必要となる活動拠点や通信サービス等の確保について学ぶ。
7	救援物資ロジスティクス演習	救援物資の調達から輸送・保管・配布における留意点などを学ぶ。
8 演習	【実務担当】質疑応答／救援物資机上演習／全体討論	救援物資の調達から輸送・保管・配布における留意点、また救援物資の調達から輸配送の流れを机上演習形式で学ぶ。
	【一般管理】質疑応答／人的資源管理演習／全体討論	災害対策本部における人的資源の確保、管理等における留意点などを演習形式で学ぶ。

⑤ 被災者支援：コースコーディネーター 田村 圭子（新潟大学）		
1	被災者支援総論	被災者支援の実態と被災者支援の全体像を学ぶ。
2	災害救助法と被災者生活再建支援法	被災者支援における災害救助法と生活再建支援法の位置づけや手続き、適用事例を学ぶ。
3	避難所運営等避難生活支援	避難所のライフサイクルを学ぶ。
4	避難所運営の実際	事例を基に避難所運営の実際を学ぶ。
5	要配慮者をはじめとする避難者の避難生活支援	災害時要配慮者を始めとする避難生活への支援対策・医療による被災者支援・令和3年3月の災害対策基本法において、市町村に作成が努力義務化された個別避難計画作成のステップとその機能を学ぶ。
6	被災者支援の個別課題	各種専門機能の連携による被災者支援と被災者支援の個別課題を学ぶ。
7	生活再建支援業務	生活再建支援業務を学ぶ。
8 演習	【実務担当】災害時のトイレ問題／全体討論	避難所のライフサイクルを演習形式で体験し、避難所運営業務の実務を学ぶ。
	【一般管理】避難所の運営業務／全体討論	避難所のライフサイクルを演習形式で体験し、避難所運営業務の管理運営を学ぶ。

⑥ 復旧・復興：コースコーディネーター 加藤 孝明（東京大学）		
1	復旧・復興総論	災害からの復旧・復興の概念、行政・被災者等の取り組みから、生活、産業、社会、市街地の復興プロセスとその全体像について学ぶ。
2	公共基盤の復旧（基盤復興Ⅰ）	被災した公共基盤の復旧・再建の理念とその支援制度、対応業務の進め方について、事例を踏まえて学ぶ。
3	仮設住宅（生活復興Ⅰ）	災害救助法による応急仮設住宅の提供の取り組みを、事例に基づき学ぶ。
4	コミュニティ再生（社会復興）	地域社会の再生（つながり・コミュニティの継続と活性化）について事例を通して学ぶ。
5	市街地の復興まちづくり（基盤復興Ⅱ）	土地区画整理事業など市街地の基盤を再整備する復興まちづくりの意義と課題を事例に基づいて学ぶ。
6	住まいの再建（生活復興Ⅱ）	被災者個人の生活再生とその基盤となる被災者の住まいの再建について体系的に学ぶ。
7	地域産業の復興と雇用確保（産業復興）	地域社会の活力と被災者の雇用確保のための産業復興について事例に基づいて学ぶ。
8 演習	復興まちづくりイメージトレーニング	【実務担当・一般管理】現行の体制・制度では対応できない課題を明確化し、被災後の復興期に対応できるような仕組みを準備。復興まちづくりに対応可能な人材を育成する。

⑦ 指揮統制：コースコーディネーター 林 春男（京都大学）		
1	指揮統制総論	災害対策本部組織を統制していくための理論と基本構造を学ぶ。
2	世界標準に則した災害対策を実現するための留意点	現行の災害対応を世界標準に則したものに変更するにあたって留意すべき2つの側面を学ぶ。
3	指揮統制の世界標準	世界標準における危機対応組織の仕組みを学び、リーダーに求められる4つの役割について学ぶ。
4	指揮統制の現状	大規模災害を経験したトップが指揮統制の本質を語る。
5	日本社会に適した指揮統制のあり方	危機対応の世界標準に則して災害対策本部の統制のあり方を学ぶ。
6	リーダーシップのあり方	リーダーシップの考え方と指揮統制を行うための要求事項を学ぶ。
7	参謀にとつての災害対策本部運営	危機対応組織の参謀がどのようにトップを補佐しながら災害対策本部を運営していくのかについて学ぶ。
8 演習	災害広報（記者会見演習）	災害広報の事例を踏まえ、地方公共団体の長や幹部は、メディアを通して被災者等にどう向き合い、どう語るのかを演習を通して学ぶ。
9 演習	全体討論	防災力アップのため、指揮統制について学んだことを、受講者のそれぞれの組織でどのように反映させるのかを考える。

⑧ 対策立案：コースコーディネーター 林 春男（京都大学）		
1	対策立案総論	災害対応における対策立案の考え方と情報統括、活動サイクル、体制を学ぶ。
2	指揮統制の世界標準	世界標準における危機対応組織の仕組みを学び、リーダーに求められる4つの役割について学ぶ。
3	災害対策本部が行う対策立案プロセス	「当面の対応計画（インシデント・アクション・プラン）」の果たすべき役割と基本的な構造、立案のプロセスについて学ぶ。
4	地図による状況認識の統一とISUTの試み	GISによる統合された情報提供の必要性和ISUTの有効性について学ぶ。
5	応急期の政府支援	発災直後に各省庁から提供される具体的な支援の内容について学ぶ。
6 演習	効果的な災害対応計画マニュアルの作成方法	災害対応計画の果たすべき役割と基本的な構造、災害対応マニュアルの作成について、災害対応の事例を基に学ぶ。
7 演習	災害対策本部運営演習（当面の対応計画の流れを中心に）	災害発生後の限られた情報の中で状況を推測し、対応方針を検討し、計画を立案し、活動を調整しながら、災害対策本部会議において対策を決定する手法を演習を通して学ぶ。
8 演習	全体討論	災害対応マネジメントにおける計画立案について学んだことを、災害対策本部運営にどのように反映させるのかを考える。

⑨ 人材育成：コースコーディネーター 黒田 洋司（消防防災科学センター）		
1	人材育成総論	人材育成の必要性や戦略・法律・計画を学ぶ。
2	訓練・研修の実際	国や地方公共団体等が実際に実施している訓練や研修の実例を学ぶ。
3	訓練・研修企画手法	防災訓練・研修を企画する際のポイントを学ぶ。
4	訓練企画運営実践Ⅰ（状況付与型図上演習）	訓練手法のうち状況付与型図上演習の一つである、災害対策本部運営訓練を経験すると共に、様々なシナリオを用いた状況付与型図上演習の考え方を学ぶ。
5	地域防災リーダーの育成	地域における防災リーダーの育成の意義と研修の企画、実施手法を学ぶ。
6 演習	訓練企画運営実践Ⅱ（討議型図上演習）	訓練手法のうち討議型図上演習の一つである災害エスノグラフィー演習を体験すると共に、様々な素材を用いた討議型図上演習の考え方を学ぶ。
7 演習	人材育成に関するテーマ別情報交換会	受講生同士が講師陣と共に情報交換しながら交流を図る。
8 演習	人材育成プログラム作成演習	人材育成プログラムの作成手法や留意点について学ぶ。

⑩ 総合監理：コースコーディネーター 岩田 孝仁（静岡大学）		
1	総合防災政策	総合的に防災政策を推進していくことの基本的な考え方を予防対策から応急対策への流れに沿って学ぶ。
2	総合的な被害抑止施策の実施	水害や土砂災害、地震などの被害を抑止するための総合的な対策について学ぶ。
3	リスク評価に基づく災害対応の検証	防災アクションプランのサイクルについて学ぶ。
4	応急対策の実態	災害対策本部における重要業務と応急活動の実態について学ぶ。
5	大規模災害の検証と対応	大規模災害がどのように検証され、どのような対応方針が示されているのかを学び、今後の災害への反映を考える。
6 演習	災害対策本部体制	災害対策本部体制を構築するために必要な体制、空間レイアウトなど事前に準備すべきことを学び、災害対策本部運営の流れと心構えを学ぶ。
7 演習	全体討論	総合防災政策立案について学んだことを、受講者がそれぞれの組織でどのように反映させるのかを考える。

〔参考〕R6年の演習例(避難者支援コース)

時 間	内 容	【実務担当】	【一般管理】
10:00～	概要	被災者支援のフェーズ、活動場所の全体像を説明	
10:15～	【職位共通】 避難所のライフサイクルを学ぶ	<p>【職位共通】 被災者支援の拠点となる避難所における体制・業務内容について、ガイドラインを使ってふりかえる</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・避難所で実現すべき業務を理解する ・どのような部署や主体と連携して進めるべきか理解を深める 	 <ul style="list-style-type: none"> ・避難所で実現すべき業務の全体像を知り必要な体制構築について学ぶ ・受援体制の必要性、あり方を理解する
12:00～	昼休憩		
13:00～	<p>【実務担当】 避難所の実務(災害時のトイレ)</p> <p>【一般管理】 避難所の運営業務(職位別演習)</p>	<p><状況>局地的な地震災害が発生。1市に現在8つの避難所が立ち上がっている。</p>  <p>【実務担当】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所(小学校)の建物配置図と既設のトイレ数を各班に配布する ・最大避難者数を見積り、必要なトイレ数を見積もる ・避難所業務を各班に2つ付与する 	 <p>【一般管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害見積もりを行いながら、3日間の戦略(市長レク)を検討する
15:00～	休憩		
15:15～	災害対策本部 避難所班 (共通演習)	<p>【職位共通】 実務担当:避難所の実態と課題を報告  一般管理:戦略を説明</p> <p>各班:実務管理班、一般管理班が共働で、避難所の実態をふまえ、 ①今度どのような戦略が必要か、②必要な資源の種類と見積もり数は どのようなものかを作業して市長に報告する。</p>	
16:45～	講師・まとめ	講師3名とコーディネータから、本日の演習状況を踏まえたコメントを行い、全体をふりかえった	